

婦お女ん子なの職つと務め

(一) 婦女の眞價おんな まことのあたひ

價の貴たかき物も其値段のつけ人てに因て其價は見えざるべし。小判の價は貴ても猫の前に置けば其價を知らず。如是そのやうにたゞ猫が鯉節つげに目を注るが如く酒色さけいろや美服うつくしききものや美屋うつくしきいへや舞三味線藝等を女の價と思ふ人には女の小判たる眞の價は見えがたし。

然れども心の眼をよく開き女の眞價を視れば、餘程貴たかき價を發見みいだすべし。余わたくしがケ様に申せば或御方は暫く考視てそんな貴き價は一向視えぬと言はるゝならんが、然まやうり今日本の婦人を視ればどうも貴き價を視ること無し。余其理わけを譬たとひて少く述べべし。それは恰ちやうども山から掘出したなりの礦物あらいなか磨かぬ寶玉たまかの如やうに、人の勤勞はたらきが足らざる故眞の貴き價が出ざるなり。なぜなれば金にしても若掘出したまゝならば其中に多くの雜物まじりものが混てある故金の價を見ることなし。又寶玉も磨かねば光が出ざるべし。如是女も貴き價あるものにも種々いろいろのあしき性質を交へ、また生れながらにして學問もせず徳も磨かざれば女の眞價を持つこと能はず、又惡しき教育を受けし女を譬たとひて見れば、大切なる黄金を玩弄物おもちゃに製つくり無益なる物となしたるが如し。然し其雜物を除のけば、眞の金たる價が出て磨けば寶玉たる光を發すべし。

婦女子の職務

而そして物の價を知れば知るほどその用を増し其益を増すべし。昔、水は只飲むだけの價を知りしが、今は其外そのほかに蒸氣力なる價をしり、世界中に大なる益を與へたりき。即之を船や車や器械に用ひて凡すべての働きをなし、開化國にては衣服も食物も器械も大抵みな此力をもちひて製するに至り。また其上に水より水素をとることを知りて輕氣球を作り、或は多くの職業上に缺くべからざる瓦斯となれり。それ死物しんぶつの水でさへも其價をしれば知る程其用と益を増さざりし

や。況て萬物の靈たる靈魂の備りたる婦女の眞の價を知り之を用ゆれば、實に國家の大なる益をなすこと疑ひなし。故に其貴き價をしらべて之を用ひざるべけんや。

昔より何の國にても女の眞價をしらずして持たざる國は必ず開化することなし。譬へば印度にては婦人を最下げしめ又婦人の本を讀むことを無上の耻となし、只夫の奴隸となり、若夫の死する時は夫に殉死することありと。其他世界中には種々の有形ありて一人の婦を數多の夫の共有となし、或は一夫が數婦をもち、ただ夫の奴隸玩弄物の如くせられ、無學文盲のありさまにして婦女の眞價を持たざる國は未だ少らず。斯る國はむかしも今も決して文明開化の幸福なく必ず野蠻の風あり。

我國の婦女子は如何。随分進し者もありと雖も多は無學にして夫の奴隸の風ならずや。また娘はたゞ男の見物のごとく如何かして美しく飾らんと思ひ、顔に白粉を塗り體に美服を着るを第一の榮となす者夥からずや。甚しきは貴き靈魂を持ち世界中の富にも換へられぬ人間を犬か猫かの如に、或は百圓或は二百圓にて身を賣りて耻をさらし、世を腐らす婦人は日本中に幾人あらんや。斯る婦人は惡毒を國中に流し眞の文明も開化も殺す者なり。嗚呼悲むべきことならずや。

斯る處へ眼を當ると女の徳も智も職務も價もなきが如見ゆれども、決して然らず。又御方は女も随分貴き價あれども女は男に劣たるものと云はん。然ども之も少し誤ならん。夫れ日本にては女の腐れたようなとよく申せども、是は前にも述たる惡き風俗と無學にして心狭て人に壓制られて嫉深き等によりて男より女に心根惡しき者多きわけなるべし。然し若眞の教育を受ば女の徳は男に劣らず愛の如きは男の及ばざることあり。智も随分有るに相違なし。英國の女王は國を支配するの智あり。又歐洲米洲に於ては大學校の教師となりたる婦女も多きあり。又實に有益本を著したる女も多きあり。又當時文明國にては(男女の間が清く正しきゆえ行はるべし)男女をして同學校の同學科を學ば

しむる學校ありて、男女共に優劣なく進めりと。余斯くいへば、ある御方は否女は器械の發明をなせしこと少なくて、文器械を發明することなく政治を論ずる辨論も男に劣るゆえに、女の智は男に劣ると云ふ者あらんが、然し、之に由て女の智を定むることあたはず。

如何となれば男の職任と女の職任異なればなり。女は幼稚の時より目的は器械の發明にあらず。又政治を爲すことにもあらず。故に大工は醫者の事を能くせず、醫者は大工の事を能くせざるが如く、かゝる事は婦女の職務ならざるゆえ如是事に實驗を得ざれば、之を能くせざる苦なり。若や如是目的を立つるも女の不可缺職務にあざれば、餘り熱心忍耐もをこらぬわけゆえ、そう上達すること能はざらん。また上帝もその目的を助け給ふこと少なからん。然し、女は自分の職務を盡すに男の職務を盡すだけの智慧がいれば、その職務を盡すの智慧あるなり。如是體も智慧も徳も備りたる女には、大切なるつとめはあらざるや。必ず男に劣らざる實に大切な實に難しき職務を持てり。その職務は次に段々説き示すべし。

今日本にて婦女の善き手本を持たざるゆえ、我國の婦女は、世界中何れの國を問はず眞の價を持ちたる婦人を手本と爲せば宜しからん。然し器械か家かの如くに圖でも示すことあたはず。肉眼でも見えずがたければ、能く心を用ゐて種々の本（婦女子に關りたる書籍）を讀み、又かゝる婦人の多き國の出來榮を見ればよく其の價を視るべし。西洋の國々の彼處まで進みしも品行正しき者多きも、婦人の眞の教育を受け智を研き徳を修め眞の婦女子のつとめを盡せしことが一の大なる根源なり。此は余の説のみにあらず。多くの有名大功を國に顯はしたる賢人君子も自らいはれしに、我は母の徳に由て此處まで進むことを得たりと。又多くの世界の學者も云はれしに、婦人は文明の基礎と。然れば婦人の價は貴くて若之を眞に用ひば、國を奇麗な文明に造り種々の幸福を國家に與ふべし。次に段々其眞理たるを論ずべし。

(二) 教育の重任おもきにん

〔い〕教育の大切なること

古今の有名なだかき人々を考へ視れば學者もあり智者もあり、仁者もあり、大功績おほてがらを世に遺せし人もあり、其他實したまへきに可慕こぼ人々數多ありと雖も、彼等は皆生れながら斯る徳や智や力を有もちしものにあらず。必小兒の時の教育の有形と非常の永き勉強苦勞忍耐（此等の力も母の教育より來るは次の母の徳義に審つまびらかなり）に由て得たる結み果なり。故に生れつきの賢き者も愚なるものも、眞の教育を受けず勉強忍耐もせずしてよき出來榮を得んと思ふ者は、恰ちやうども寢て居り遊んで居て金を儲んと思ふか、或は蒔う種くさず耘くまらずして穀物の實を得んと思ふがやうなことにて、何いかほど考ふるも、一生涯まち望むとも目途めあてが違ふべし。我國にては多くの親は、餘り子の教育に力を盡さず（眞の教育を知らざるもの眞に心を教育に入れざる者多し）して子の美徳功績を待つ者あれ共、之は實に危き望と謂ふべし。而して次の〔ろ〕に於て論ずる如く人を得るの教育は、重に母の職務なれば母は人間を作り出す職務にて百姓が米を作り出すつとめよりも大切なる事なり。即婦人は世を教育する萬民の師なり。なぜなれば大人まらひひと小人つねのひとを問はず悉く婦人の手に由て教育を受けぬ者は非ざればなり。故に、家は國の中にて尤大切なる學校、即人間の基礎きぞいを置く處の學校なり。而して其五六人の生徒（子女）を教育する教師（母）は百人の生徒を教育する學校の教師に劣らざる職務あり。故に夫それに等おとき智徳ちとくを要くすべし。如何なげなれば一人いちにんを感化する徳は百人をも感化すべし。又一人を眞に教化する智慧あれば百人をも教育することを得べし。譬ば醫者が一人のコレラ病を愈す術を知りたれば之に等おとき病人百人をも愈すことを能ふべし。また譬ば母は染屋こらやの藍坪あいなべの如し。即ち一線ひしよぢの糸を濃こめく染んと欲おもへば、全き汁濃からざるを得ず。故に糸一線を染るも百

線を染むるも同じ濃の汁を要するなり。故に一人の子を教育するにも學問も智も徳も勉強も忍耐も充分に入り用なり。或御方はそふ力を盡して子を教育するも、僅五六人のことなれば餘り大切なる事にあらずと思ひ其職任を怠る者もあらんが決して然らず。只一人にてもよく教育せば、其功は諸方に傳はり蔓りて千人も萬人も教育することになるべし。即一人の子を教育することは其子の遊ぶ朋友を教育することになり、又成長して朋友親族終には一國一洲に傳はり行くべし。譬ば米國の大統領たりしワシントンの百姓の身分より起り、斯る功績を成就したるも、大に、母の教育によりしが、彼を教育せし母の功績は世界中へ後世までも傳はれり。然れば、今僅五人の小兒を眞に教育せば三十年の後には此世界に五人の賢人君子を得るなり。且其五人に由て幾千の賢人君子を得るか、只其教育の有形によるべし。若し之に反して悪く教育せば國に五人の盜人を得、其害は幾人に及び且幾人を導きて悪人となさんや。故に吾國にもワシントンの如き人を幾人得るも、人を作り出す婦人の手にあり。又幾人の悪人を國に生ずるも婦人の手にあり。故に之に目を注し婦女よ、今我國に事物を發明する者、忍耐して功を成就する者己を捨て、眞に國を愛する者の乏しきを羨む勿れ。汝等力を盡して子を教育せば其等の人は續々出づべし。余慥に婦人に由て人を作り出すことを次に段々論ずべし。

〔ろ〕子女の教育は母の手を離れられぬこと

日本にては母は無學不品行にて父が學者で品行正しきか、或は善き教師に任せば子女の教育に差支なしと思ふ者随分多しと雖ども、之は大なる誤りなり。母悪しければいくら父や教師がよくても眞の教育は出來ざるなり。如何なれば 第一 小兒の時子に食物をあたへ衣服を着せ寢所に眠らせ子の友となりて遊び或は話をなすときに、一生中最大切なる教育を致すべし。(次の論に審なり) この教育は如何にしても父にてはできがたきは論を待たず。

第二 母に教育なければ父の教へる事と母のをしへることが度々異なれば、眞の教育を行ふこと能はず。譬ば父が子に眞實なることを教へても、母が父に隠して父の誠めしことをゆるし或は戒めし物を與へば父の教へは少しも益をなさず、其子の性質は偽人いつはりびと或は偽善者にせのよきびととなるべし。

第三 母無學不品行なれば教師の教へと反對すること度々有ば、其子に眞の教育を施すこと能はず。譬ば教師が學校に於て生徒に教へて曰く、汝あな定まりたる食時の外にいつとなくお菓子やお饅を食てはいけません。なぜなれば汝の爲に惡ひ事で、終には腹あはが悪くなりて病氣になり且それは悪しき癖となり、大人と成りて飲食に心をとられ善事よきことが出来ぬやうになりますから。夫故若定りたる食時の外に人よりお菓子でも貰ひなかつた時は食時まで貯へ置きて其とき食なさひ。又極きまりの食時の外にお母さんに食物を下されと云ふて泣てはいけませんと申しましても、家に歸り母が自から時を定めずいつとなく好みにまかせて飲食するか、あるひは菓子を子に與へて曰く、いつでも汝おまへのさびしきとき食くなさいと、その時子が教師のをしへをはに咄はなても、母の申すに先生はそう申されてもいつ食てもよろしいとせば、教師が力を盡して教育することは無益となるべし。第四 母に教育なければ母に威光なきゆえ子の性質は高慢氣儘不孝となるべし。譬ば母に威光なきゆえ子を其命いのちに従はずことが出来ざるゆえ、子が惡ひことをなして止めざれば、母は仕方なく先生に告るとか、父に云ふとか、いひておどすに至る可し。故に、母の威光はなくなり母を輕蔑し、氣儘を云ひ高慢なる心を起すべし。これ等の性質は實に大なる惡質とならん。(次の母の學問の中に審なり)

〔は〕 母の徳義

幼稚の小兒は未だ自分の習慣なも實驗も智恵もあらざる故、自分に自分の體を守ることでもできず、又自ら能善惡よくを撰ぶこともできず、全く他人の手に任されたる者なり。此時體も心も柔弱なるゆえ、僅の事に由て害ふべし。若し此時

に體の機關を損へば一生の不具或は微弱となり、智の芽を害へば一生の患者となり、徳の芽を傷めば一生が悪人となるなり。之を如何するも之を任せられし者の手にあるなり。此の破れ易き大切なる者を預る者は誰ならんや。即ち母なり。故に良母は子女の智徳身體を發育すること、太陽と水の草木を日々に延長むるが如し。然れども惡き母は子女の發育を妨ぐる事、大石の草木を壓しつけ其延長を妨ぐるが如し。

體と智とのことは次の論に譲り、今茲に母の性質は子の性質となることを論ずべし。

(第一) 母は子の未だ言語も通ぜざる時其の性質を植るなり。

人生れて直に母の乳に由て養はるゝが如く、幼稚の時より母の一行一言は子の心を養ふその芽を發達せしむるなり。故に當時母の性質善ければ太陽の植物に於るが如し。惡ければ善き芽を折りて惡しき種子を蒔くが如し。譬へば笑顔温言を以て常に其子を受すれば、其愛心子の愛心を發達せしむ。然れども之に反して時々暴き顔色を顯はし嚴しき言葉を發し怒氣を以て子を取り扱ふ様の行あれば、愛の徳性を害ひ猛惡き性質を發生せしむべし。

(第二) 不知不識母の擬似をなして其性質を傳習る者なり。

漸く成長して言語も通じ手足も働くに至れば何を爲し初むるやと考ふれば、必ず自分の實驗なくまた善に就き惡に遠からんと欲ふ等の選ぶの力なく、只他人の爲すことを見て之が擬似を爲すべし。當時母の行爲を見ること最も多ければ之に倣うこと最も多し。譬へば母が字を書けば自分も之を書かんと欲ひ、或は煙草を吸へば自分も之を吸んと欲べし。如是萬事母の擬似を爲すものなれば母の品行は子の性質となるなり。

(第三) 子は尤も母を愛し慕ふ者なるゆえ母の品行を倣ひ行ふべし。

大人にても愛する者の教へること言ふこと爲すことは、實に慕しく好しく見へ、嫌ふ人の教へること言ふこと爲すことは、疑多く信ずること薄き者なり。故に愛する人の言行に倣ふこと、嫌ふ人の言行に倣ふよりも遙に多し。

況して小兒にして其尤も愛し慕ふ母の教へること言ふこと爲すことは、必ず之を善と思ひ之に倣ひ行はざらんや。

(第四)母は己れの性質に應ひたる方に子を導き己れの性質を子に傳るなり。

善母は子女の朋友を選び善き朋友と遊ばしめ、惡母は、其の子の惡しき友と遊び惡しき話をなし或は惡き遊びをなすも注意ざるなり。其の他學校を選ぶにも場所を選ぶにも萬事萬物を聞かしめ見せしむるにも、悉く己れの性質に應ひたる方に導き教ゆべし。譬へば孟子と云ふ賢人の小兒たりしとき商人の近傍に住みしに、彼れは常に商人の擬似をなして遊べり。故に母は賢き人なれば之を子の性質の爲めに惡しと思ひ、其の爲めに住所を變へ墓所の近傍に移りしが、當度は葬式を見るゆゑ其の擬似をなして遊べり。故に母は又之を子の爲めに害なりと思ひ、終に學校の近傍に移れり。然るに彼れは學問の擬似をなして遊び、終に母の斯る導きに由り斯る賢き人となりたり。

(第五)母より受けし性質は一生涯漸々に成長するものなり。

一例を擧げて之を云へば、母が物を穿鑿してなきか、或は病氣の時怒りを發し物に嚴しく觸り或は嚴しき言語を發せば幼き小兒の心に入りて一の種子となり漸々身體と共に成長し手足を動かして遊ぶに至れば、自分の氣儘にならぬ時は物を投げ或は泣くべし。而して最少し成長して學校にも往くに至れば、若し字が喜書けねば紙を破り算術が出来ざれば石筆を投ぐる様になりて、漸々大人になれば其の性質も大人になり、人を怒り人を傷むる如き惡質となるものなり。其他善惡即ち愛・忍耐・憐・眞實・勉強・正義等も惡・争・無情・偽・飲酒・喫煙・懶惰等も、悉く母の性質は子の性質となるべし。或人は思はるゝに母の性質は惡しくても、常に子の前に惡を包み善を飾りて教育せば、子を善く教育すべしと謂はるゝ者あらんが、之れは難きことにて母の性質は他人には隠されても自分の子には隠すことを得ず。如何となれば子は晝も夜も食する時も働く時も休む時も病氣の時も、常に母の傍に住む者なれば、母の行は直に其心に入りて本質となるものなり。

(第六) 母より受けし性質に由て其人の一生の目的を定るものなり。

人已に成長して自ら事を爲すに至り其の目的を定むるに、母の教育の有様に由て之を選び定むべし。即ち母が常に子の前に於て善を選び惡を捨て且つ如是子に教へしなれば、子は必ず此時に當り善き目的を定むべし。世人悉く目的なくして働く者なし。或は眞に國の爲めに働く者あり、或は己れの爲め即ち名譽・高慢・利慾等、甚だしきは可惡惡業を爲す者あり。此等は善惡共小兒の時母の賦與し性質の選ぶ所なり。

(第七) 母より受けし性質其人の功を成就せしむるなり。

人其の目的を遂るには非常の困難ありて、之を忍耐ばざれば決して之を成就すること能はず。此力も母より受るものなり。譬へば母が常に忍耐て徳を顯はし人を愛し、且つ常にその様に子女に教訓れば、子女も漸々此徳に化せられ終に國の爲め人の爲めに生命をも惜まず多くの大困難を堅く忍び、世の益を成就するの強き力となるなり。

故に母の教育及性質は學校の教育よりも實に大切なり。如何なれば一旦得たる性質は消滅ること實に難き者なればなり。即ち學校に入校する生徒を視るに、其の性質悉く異にして或は遲鈍或は鋭敏或は怠惰或は專心或は忿怒或は忍耐或は惡或は善なり。(然れども固より未だ幼稚の者なれば其の性質も弱し) 此等の母より受けし惡しき性質を矯めること實に難く、之に反して母より受けし善き性質は學校に於て成長すること實に速かなり。故に家に於て幼小の時智徳の芽を出さざる生徒は、學校に於ても其の芽を出すこと實に遅し。但し母は十全なるも學校の教育惡しければ、恰も苗に成るまで善く培養て、其後大風雨日に由り死枯しむるが如し。今世多くの放蕩淫亂の輩は大抵學校の朋友より斯る性質を受けしこと多し。即ち父母の教ゆること能はざる惡事を學校の朋友より習ふこと實に多し。嗚呼學校と朋友は選ばざる可けんや。

〔に〕 母の學問

我國にては女に學問は入らぬと云ふ者が随分多くあれども、若文明の基なる女に學問なくして、如何に國が文明に進むの理あらんや。無學にては如何しても婦女の職務は盡されざれば國は開けざるなり。又我國の人民は大抵三千万五百万人の中にて女半分あり。若此半分が無學なれば半開ならずや。又女の御方にお氣の毒なることなり。なぜなれば無學の者を暗きとか盲目とか申して事物の道理を知らざるなり。故に自分の職務も能くせず且つ盲目故目明に比べて見れば樂みも大に少し。而して母が盲目にて如何して子を善に導くことを得んや。實に危きことにて如何なる深き溝に陥るかを知らず。故に學問をなし智を研ぎ心の目を充分に開かねば眞の教育を爲すこと能はず。即心理も生理も凡の事物の道理も教育法も知らざる可らず。又裁判する智も子を勇み勵ます方法も面白き話を作る智も規則を作る智も未來の事を計る智も、其他種々に智慧と學問と思考力を要すべし。前にも論ぜし如く學校の教師ほど學問智識を要するなり。(一い)教育の大切を考へ(すべし)故に男の學ばねばならぬ學問は女も學ぶべきなり。又男が智を研かねばならぬと等しく女も智を研く可きなり。學問とは則智識を研くことなれば只本を讀むことのみが學問にあらず。故に萬事萬物に心を用ひ一生涯學問をして日々に進まざる可からず。

今爰に母の無學の害を論ぜば其理を能悟る可きなり。故に實地の例を擧て少しお話申す可し。即ち母が生理をよく知らざれば小兒の生命を害ふこと夥し。又成長を妨げ體を不具か微弱になすこと多し。譬へば赤兒の目に嚴しき光線をあて、眼を害はしめ、或は衣服の不注意等よりしてひきつけ病を起して死なしむることあり。或は小兒の腦髓の理を知らざるよりして頭を拵き、或は過度たる勉強を與て腦力を傷め體と智の發達を妨ぐる等なり。

又母が無學なれば自ら學問せし實驗なく、また常に學問に心を用ゐざるゆえ子を勵まして學術を勉強せしむること

あたはず。また前にも述し如く子は母の擬似をする故母が自ら本を讀みしことなく、且つ懶惰なれば子に學問を勸むるも子に感覺薄し。如何にとなれば子に教ふるより自ら其事を行ふは百倍の力あり。

又母が無學なれば其心は鈍し。故に子の心を鈍く爲すべし。

又母が無學なれば子女の勉強したる學科の過ちを正し、正しきを賞めることを得ざるなり。譬ば子が字か算術をなして母に見せても其正誤を知らず。又今日學校に於て何を修業して不勉強なりしか勉強なりしか知ること能はず。又子が學問の話を母にするも母は其友となつて聞くこと能はざる故、兒を悦び望ましめて勉強せしむる仕方を得ることなし。

又教育法を知らざるゆえ子の難き學課に困る時、之を勵まし子の性質を強くすることあたはず、却て弱く導くべし。

又母無學なれば學校に於て眞の教育を施すを嫌、子女は自ら勉強進歩の志あるも、終に母の頑固心よりして其學校より子女を退かしむること多し。故に子弟の教育の尤も難きことは母の無學なり。現に吾曹の女學校に於ても其例實に多し。如何となれば未だ吾國に於て女子教育の切要なるを知る母少ければなり。

又學校に於て教師が子女の性質を矯さん爲めに罰を興へる等のことある時、母は教師と同じく子を責戒むる筈に、却て教師を誹るようなる事ありて子の性質を矯すこと實に難し。

又母が無學なれば凡子の間に答へて、萬の理を説明すること能はざる故、終に母を輕蔑し母を信用せず母の命にも從はざるに至るべし。如是有形に至れば母は少しも子に眞の教育を施すこと能はざるに至り、子女の性質が高慢・不孝・氣儘となるなり。譬ば子が母に私等の食た食物の入る所は如何な物でありますかと問ふても母は私はよく知りませんと云へば、子の心に母を輕蔑する心起り、其後母が汝若これを食べ過ると病氣になると云ふて聞せても、子は其

教によく従はざらん。又學校より歸り本の内より此世界が轉じて下になつた時、なぜ私等は下に落ませんかと尋ても母は私は知らぬと云へば、子は母を輕蔑して自ら思ふに母より我は優れりと。又母無學なれば自然夫よりも輕蔑を受れば子女も母を輕蔑するに至るべし。故に高慢心を起し母の命に従はざるよりして氣儘不孝となるなり。其他子女が自ら獨立して事をなすまでは常に迷ひの道より眞の道に導びき難きを忍び業を成就するやうに勵まし勸めざる可からず。故に學問なく眞理に暗くして子女を教育する事は實に難しきことなり。

〔ほ〕公の教育

嫁よめして子なきものあるひは嫁せざる者には國に缺くべからざる大切なる職務あり。此つとめは文明國の婦女子せんなんの爲すことを考ふれば之を悟ることを得可し。則文明國にては、幼稚園・小學校・女中、大學校を教育するものは主に女なり。此等の學校の大切なるは、論ぜずともわかりしこと、またこゝに論ずる場所もなければ之を措く可し。又幼稚園も小學校も女學校も皆小兒と女を教育することゆえ此職務は母たる務をなし得る婦女の職務たることも論ぜずともわかりし事なり。又男子をとこの大學校、師範學校の教師にも随分婦女あり。また婦女子の爲め小兒のためその他經濟・修身・教育・家政等に付て、實に有益たいせつなる本を著せし女も多くあり。(本を著すことは嫁して子を持つ者にもできる職務なり。且教育・家政等は實驗も多分たぐんある故に、多の母たる者は斯る本を著はしたり。)また惡き品行ある婦女を善にみちびく爲めに働くものも多くあり。又傳道をなし或は日曜學校を教ゆる女も數多あり、又憐べき病人の看病のためにはたらく女もあり、其他文明國にては婦女の働きは大なる益を爲せり。たとへば米國のマウント・ホーリヨーク女大學校の如き、米國に於て最も大なる學校にして米國の柱とも謂ふべき有益なる學校は、メレーライヲン氏なる婦人の實に困難辛苦を久く忍びて設けしものにて、終に斯る大學校となりたるものなり。吾國にても今斯

る婦女は實に入用なり。如何なれば女學校幼稚園の教師もなく、また多くの不品行なる女子を導く婦女もあらず、其實に婦女子に乏しければなり。

(三) 家の重任 おもきにん

〔い〕家は夫婦の二本柱より成ること

人の體は左と右に各々同じく一ツ宛の手と足と眼がありて、たがひに助け合て萬事をなすことを得べし。然れども若一方が不具か悪きかなれば働きも充分出來ず、幸も大に缺くるものなり。如是に家は夫と婦にて成り兩手兩足兩眼のごとく互にたすけ合て全き家となり働きも充分にでき幸福も充分得らるべきなり。然ども若一方があしきか或は愚にして其職務ができざれば、其家は不具の如く萬事不都合にて大に幸を失ふべし。又若し一方眼盲なれば其人の全身の榮を失ふべし。如是妻惡しければ夫の榮を失ふべし。ゆえに夫婦は同等に大切なものにして同等に敬ひ愛せねば全き家とは云ふ可からず。然し、夫婦同等の働を爲すこと能はざれば自然に之を賤む様になるは理の當然なり。前の手足の喩もをなじく雙方とも其はたらきができてこそ相助けることを得るものなり。故に婦も夫に劣らざる教育ありてこそ全き夫婦にして夫の尊敬を得るなり。若し然らざれば同等と云ふこと難し。日本の婦人の男子に同等なることのできぬも其教育あらざるよりして自然男子もこれを賤むる所以なり。

〔ろ〕家は國の基 こゝろ

國に政府あり裁判所あり學校あり病院ありこれらみな餘程大切なものにして、之を盛んにし之を能治るは實に

大切なることは誰も知て居ることなれども、家はさ程に大切なる者なるをしらぬものあれども、これは大なる誤りにてこれ等の政府などは悉く家より立て家のためなり。則家は政府の爲にあらざ。政府は家の爲なり。官員さんは家から雇たものにて、則政府は家を守ため學校は家を教育する爲なり。故に各婦人がよくおのれの家を治むるは政府の政事の勢よりも演舌者の辨論よりも實に大切なることなり。譬は夫婦の愛に由り社會に姦淫等の惡俗を滅し、又家の教育によりて放蕩男子も出來ず。また家の養生は醫者の藥よりも遙に優るべし。

〔は〕家を治むるの難易

家は女の政府なり。學校なり。教會なり。之を治め之を支配するは女の重きつとめなり。故に家を幸するも正しくするも富ましむるも、たゞ之を宰する者の責なり。而して此つとめを充分に盡すは國を治め學校を治め教會をおさむるほど難しきこと故、學問も徳も忍耐も實驗も充分に入用なる故、一生涯の企望として日々に力を盡して一生涯進むもいまだ眞の全き佳境までは進むこと能はざるべし。然ば婦女子は政府の知事か大學校の教師とならむとするの志のごとく其大任をのぞみ、一生涯如何なる困苦にも打勝て、常に怠らず勵み勇んで眞の人間が棲場所、即天國に似たる家とならんことを望むべきなり。

或婦人は思わるゝに家内の事は假令斯骨を折りて務るとも別に其功能世の人に顯れずとて氣を落すこともあらんが、これは天より女子に與へられたる務なれば、決して世の名譽を顯はすの地位を羨べからず。日本などの女子の通言に、女はたとひ大學者となりても政事を任し戦功をたつことも出來ず云々と云ひて懶惰心を起すものもあれども、之は大なるあやまりなり。況て遊藝情慾に身を抛て世の逸樂をうらやむ者をや。

又一家を能治るも僅なることと思ひ、此任を輕蔑るよふのこゝろを起すこともあらんが、これも大なる誤なり。よ

くく考へざる可らず。今こゝに人類の先祖アダムイブの事を例となして述べれば、其の有様を深く考ふれば、此僅なる家内の大切なることを悟る可きなり。造物主はアダムイブ夫婦の家としてイーデンなる樂園そこのを與へり。其時彼等の親もなく子もなく兄弟もなく親類も朋友もなく只廣き世界に二人あるのみ。然し彼等は神に従ひ罪なかりし故其幸は充滿して、寥さびしきこともなく憂ることもなし。而して其ときは婦が愛を顯はし義を顯はし人のため國の爲に働んと思ふても、只夫あるのみにてかれに盡すのみ。また夫が義務をつくすも婦あるのみ。又其樂園と宇宙の奇麗なることを見て互に話し互に悦も夫婦あるのみなりしが、其幸は吾等のいまだ知らざることなり。此等の事を考へて視れば夫婦は僅に二人のみと雖もたがひに愛したがひに眞の義務を盡せば如何なる幸を幾何程得るか知可からず。即限なからん。又この僅の間につくす義務は神より受たる大なる法律なれば之を犯す可らず。又一人の婦罪を犯てより夫を導きて夫婦罪人となり彼等は其罰によりて前の幸福はとり揚られ却て一生の大不幸を得、且つ終に肉體は死なねばならぬよふになれり。然ば家のうちに於て夫婦の間の罪は大なる罪にして不幸を得に相違なきなり。而して彼等は悪き性質となり其有形にて子を産子を教育せし故子も悪き性質となり漸次傳りて、世界中に其惡は蔓しなり。嗚呼家の内は僅なれどもこれを治むるは、實に大切にして後には如何なる大事となることならんや。故に婦は實に勉強して初めアダムイブの夫婦の有形の如くならんことを務むべきなり。

〔に〕家の幸福並に品行

善良なる婦人は花園の花の美しき色と形を顯はし慕しき香を發して人を愉快ならしむるが如く、智識を顯はして家を脩整へ慕はしき徳を發して全家を幸福ならしめ、實に他に比類なき幸福を充たしむべし。然れども悪しき婦人は家に充ちたる煙の如く全家の人心を煙たくならしめ、常に不幸を與ふるものなり。

夫婦互に愛し互に助互に相談し互に清き正き行をあらはせば其幸福かぎりなからん。即病氣のとき困難の時助となり慰となり力となり、幸福ある時は互に悦び樂み、はたらく時は兩手の如く互にたすくべし。之に反して互に徳を失ひ或は争ひ或は輕蔑する等の行あれば、決して眞の幸福を得ることなし。

日本にては夫が婦を敬ひ愛することを却て笑へり。故に日本にては夫婦の間に禮儀もなく清き行ひもなく、即夫は婦にむかひて賤しき言葉を用ひあるひは怒り或は争ひ、甚しきはうちたく様な惡き品行も餘り惡しき事とせず、只夫婦は情慾の爲めの様に思ひ、互に清き品行を顯はし互に徳を建て互に敬ふこと薄くして、却人の前にてたがひに敬ひ愛することを耻る様なる情態なり。然れ共吾人然なす可らず。夫婦は肉體の美麗なる顔を愛するのみならず、實に幸を得る大切なる義務を有つもの也。即ち互に義を顯し互に清き品行を顯し互に清き愛を顯す可きなり。夫婦の眞の交際まじはりに付て聖書に教へて曰つま（婦なる者よ、主に服したがふが如く己れの夫に服ふべし。夫なる者よキリストすくひぬし（世の救主）の教會を愛し其爲に己れを捨給ひし如く汝等も婦を愛すべし）と。然れば此愛は肉體の愛にあらず靈魂の清き愛にしてキリストが己れをすてゝ人を救ひ給ひし愛なり。如是夫婦はきよき眞の愛を互に行ふ可きなり。又夫をキリストに婦を教會に譬てあれば、夫婦の間は常に聖く愛し慕ふて義務を盡すべきものなり。能聖書の語を考ふれば、實に深き意味が悟る可けん。曰く（婦を愛する者は己れを愛するなり。己れの身を惡むものは曾であることなし。之を保養ふことキリストの教會を保養ふが如し。我儕は彼が身の肢なり。彼が肉より出で彼が骨より出でたり。是故に人は父と母とを離れて其婦に配あひひ二つのもの一體になるべし。爾曹も各々其婦を己れの身として愛すべし。婦は其夫を敬ふべし）と。（以弗所五章の中を視るべし。）

然れども人は罪多き者にて種々の惡しき性質あれば婚姻するまでは、互に包み隠れて顯はれずと雖も夫婦となりて互に其性質はあらはれて隠すこと能はず。それゆえ直に夫婦の眞の愛を得ること難らん。然れども氣を落さず失望せ

ず教會が漸々進む如く夫婦の交はりもだん／＼進む可きなり。此處が人々の云ふ婚姻の後漸々幸が減るわけならん。しかしキリスト信者は婚姻後死するまでだん／＼幸福が増すべし。なぜなれば眞の愛を主として交はるゆえなり。故にキリストが教會を勵まし助け過失を免し眞の愛をもつて忍耐して吾等の愛と信仰と智恵と力を育て進めて高上なる位置にまちびき賜ふが如く、互に勵まし互に助け互に過失を免し怒らず争はず忍耐して眞の幸なる夫婦の高上なる位置に進まざる可らず。故に母が子を教育するに全き人と成るまでは日々常に子の言行善怒哀樂に心を用ゐて種々の方法を以て或は勵ませ或は慰め或は戒めて子を導く如く、夫婦も互に萬事に心を用ゐ、さま／＼方法を考へ或は勵ませあるひは慰め或は愛を以て諫め日々に怠らず望みを貴くし眞の幸福に漸々進まざる可からず。

而して人は一生中家に在る時間最も多し。故に品行を顯はすこと談話すること幸を得ることも家に於てすること多し。故に人は家に於て己れの品行を正しくすること第一の務なり。若し大事業を成就するも人を感動せしむる演話するも、己れの品行あしければ眞正の人に非らず。而して此品行を正しくする事は、即ち心の情慾にうち勝ことなれば大事業を成就するよりも難し。譬ばアレキサンドルは世界中を伏せしむる力ありと雖も、己れの情慾即ち飲酒に打勝つ力なく終に其擲となりて殺されし。凡て人は情慾に制せらるゝこと不規則になること氣儘になること怒ること等の不品行は、主に家に於て行ふなり。若高位に在るも大事業を成就するも、家にをみて悪しき品行ありて甚しきは酒に醉或は妾を持等の不品行あれば、眞正の強き人に非ず偽善者なり。此家中に於て品行を正しくするは大事業を成就するより難くして且つ貴き事なり。而して此品行を清く正しくするは、大に婦の品行に關り婦の美德は夫を清くし婦の惡毒は夫を汚すべし。

又夫品行正しく婦品行悪しければ、外に出で内に入りて常に愉快を得ることなし。譬ば婦の不品行の夫の心を痛むること、恰も心に愛あれば身に飲食し、或は如何なる樂みあるも決して幸福を得られぬが如し。之に反して婦の美

徳は、恰も心に幸あれば如何なる困難辛苦もいとほざるが如く、病中にも貧中にも困難中にも眞の幸福が心に充ち如何なる大事業も忍耐して成就する力を與るものなり。

〔ほ〕婚姻の大切なること

日本にては一旦婚姻して再び離縁すること屢々あれども、若し斯る行あれば決して前に述べたる婦の職務を盡し眞の幸福を得ること能はず。且つ上帝に背き大なる罪を犯すことなり。聖書に教へて曰く是故に人父母を離れて、其の妻に合ひ、二人のもの一體と爲なり。然ればはや二には非ず一體なり。神の合せ給へる者は人之を離す可らず。――
馬太十九章と又姦淫の故ならで其妻を出す者は之に姦淫なざしむるなり。又出されたる婦を娶る者も姦淫を行ふなり。
馬太五章と又凡そ婦を見て色情を起す者は中心すでに姦淫したるなり。もし右の眼なんぢを罪に陥さば抉出して之を棄てよ。
馬太五章とあり。是等は夫婦は互に清淨潔白の心を持ち決して互に離縁或は不義等の行を爲す可からざるを教へしなり。

故に夫婦たらんと欲する者は嗚呼選ばざる可けんや。若し選ばずして婚姻する者は、實に一生の不幸を得ること恰も人、家を買其の家を穿鑿せずして買ふが如し。若し其家の位置は便利なるか或は土地は乾燥せるか或は光線は如何、或は住居するに勝手は便利なるかを委しく穿鑿せずして之を買ひ後に至り其の不便を發見さば、一生の不利を受く可きなり。併し家は少しの損をなせば再び買ひ代へることも爲し得ると雖ども、夫婦の縁は一旦結べば一生選び代へること能はず。只前に引きたる聖書の教の如く實に罪惡不幸の極、即ち姦淫の罪に至るの外決して離る可らざるなり。故に若し不利或は悪しき者を選ば、一生の不幸を得て常に涙の乾く時なく却て助となるべき者は邪魔となるべし。即ち一手は他手を助くる者なりと雖も若し痛或は腐敗あれば却て他の手の助とならず、共に其の害を受て働

くこと能はざるが如し。之に反して便利或は善者を選ぶ者は一生幸福を得ること、前者に反せり。譬へば日本に於て多くの婦人は心中常に悲傷む者多し。是れ選ぶ目の悪きより受けし禍なり。即ち幾度も去られし者あり。或は妾と共に泣くく暮す者あり。或は常に夫の酔を悲難みて一生を送る者あり。或は常に打擲かれて一生を渡る者あり。或は常に夫の忿怒の中に苦しむ者あり。或は終に其の苦みに耐え兼ねて或は自殺し或は井に身を投げて死する者あり。如是な家に決して幸あることなく恰も暗き洞空の内に住むが如し。斯る例は今と雖ども實に多し。之を免れ眞の光境に棲まんとする者は、眞の婦女子の職務を盡し、且つ此の大切な婚姻を重じ前に擧げたる教の如き心を持ち、次に述ぶるが如く夫婦互に選び一生の幸福を定むべきなり。

(第一) 之を選ぶに僅の穿鑿に由て定め一旦婚姻して之を試み若し我に適すれば留り適せざれば出ざる等の心を以て決して婚す可らず。是れ大なる罪なり。而して日本にてよく定むるが如く顔の美麗なるのみを選ぶ可らず心の美麗なるを選ぶべし。西洋の諺にも顔に嫁するよりも心に嫁りせよと云へり。

(第二) 己れ十分好まざるに父母親類朋友の勧めに由て定む可らず。如何となれば一生の禍福に關ればなり。若し父母も之を強て勸むれば娘をして不幸の坑に強て陥らしむるなり。假令悪き夫ならざるも若し好まざる者へ嫁せしめば一生互に幸を失ふべし。故に固より父母が幼兒の爲めに婚姻の約束をなすは實に悪しき事なり。

(第三) 身代或は財貨を目的として定む可らず。如是者は夫の奴隸の如き有形に陥り貴き幸を得ること能はざることあり。

(第四) 之を選ぶに當り其の性質は悪しくても己れの徳に由て直に矯め直さんと思ふて定む可らず。如何となれば我曹己れの心をも自由に支配すること能はざれば況して他人の心をや。

(第五) 此の大切なことを輕しくなす可らず。如何となれば一生中に一度の事且つ世界中に選ぶ可き者只一人の

みなり。故に實に萬事己れに適する者必ず少き筈なり。若し急忽になせば後ち悔を取るべし。

(第六) 故に之を選ぶに第一性質の如何を明察り其他望も學問も身體等凡て萬事を十分に穿鑿し、自分にも深く考へ父母朋友の説をも聞き決して一生悔を取らざるよう慎んで定むべきなり。西洋にて實に此の事を大切にして四五年も其性質を穿鑿して後、互に約束し且つ其後五六年も互に性質を練り、互に性質を明に知りて婚禮する者あり。或は其より短き事あり。或は長きことありと。而して其の際實に互に清白なる心を持つなり。如何となれば上帝の人心を常に視賜ふを知り、且つ幼稚より教育正しければなり。又若し眞に正しき者は其際惡しき性質見るれば之と婚姻せざればなり。

(第七) 而て未だ十分の教育あらざれども家の大切なる事は姑あれば差支なしと思ふ可らず。斯る者は決して眞の婦女の職務を盡すこと難からん。而して何の爲めに嫁するや家を治むる爲ならずや。然ば未だ其の力なくして此大切な任を受るは恰も未だ國を支配する力なくして、政權を取るが如し。又十分の教育を受けずして此大切な任を受けば、前に述べたる職分の中、子女の教育の如き任を未だ教育なしに盡すこと能はず。且つ當時婦人は大抵無學なれば餘り之を耻づる者なしと雖ども、十年の後には多くの婦人學問をなしその時に至れば無學の不都合を大に悔ゆる時來るべし。故に前に述べたる婦女の職務を盡すに堪ゆる教育を受くべきなり。

今こゝに既に嫁せし者に告げんとすることあり。即ち惡しき夫を持つも之を不足と思ふ可らず。天の賜なりと思ひ實に深き愛を以て之を敬ひ、愛と眞に由て其の性質を矯さんことを常に望み非常の忍耐を以て之を善に導くべきなり。然れば大に己れの性質を練り増々純良に進み、種々の實驗を得て貴き婦人となるを得べし。加之終に夫をも漸々其の德に感化すべし。

それ政府・學校・病院等の入費も諸機關の設も諸銀行の富も諸富家の富も悉く家の儉約より得たる塵が積りて山となりたるものなり。譬は政府は家の儉約より得たる地稅・家稅・職稅より成り、私學校或は教會等も家の儉約より得たる寄附金より成り、銀行或は富家の富も儉約により漸々蓄んで斯る大數になりしものなり。故に人若如何に働くも夫丈悉く費せば富を得ることは能はず。かゝる人をたとへて見れば今日一枚の衣服を作り之を直に焼くが如く少しも富を得ることなし。(素より富は勤勞されば決して得ること能はざれども此任は重に夫の任なればこゝに論ぜず)

此職務は夫にも關ることが多しと雖も重に婦に任すべきものなり。如何なれば夫は家業の爲に働きて財を得ると雖ども、家の食物衣服を買ひこれを製しこれを費すこと等の家の事までみづから働くこと能はず。故に婦ありて之を主るなり。婦は夫の得たる財を受け之にて衣食器具等給へるもの也。此三ツの物は人の生活に缺れぬものにして、世の人には大抵此三物を供へる爲めに勤勞て居れり。故に婦人が各の家にて之を有益に用ふると無益に費すことによりて、一家にも一國にも大變の差別即富と貧、又幸と禍を生ずるものなり。譬は婦の不品行よりして定時の外につねに飲食せば體の規則に背くゆえ病となり、病となれば醫者も招き薬も飲ねばならず多くの人を遣はねばならずして其損を算すれば餘程多數に至るなり。即其常に飲食せし物品の價と藥代と自分の働かれぬ事と他人の手を取しこと、を積ば、直に拾圓二拾圓の損となる可し。其他飲食のために財を無益に費すこと夥し。即ち酒は日本にて大抵悉く飲めども、此酒代、稅、飲む時間、喧嘩、病氣、藥代、肴代等又煙草、煙管、煙草入、其商人の稅等又無益なる飾、美服、器具等は悉く無益に財を減すものなり。又儉約なし富を得ることは、婦が家に於て順序方法を立て日々に智識を

めぐらして會計を爲すことなり。

若家を富さば一家内の幸と榮となり且衆人おほぜいのひとはそれによりて大なる幸福を得べし。即ち雇はれて自分の益を得る者あり、或はたすけ恵るゝ人もあり、又機關等の設もつけをなせば衆人おほぜいのひとに種々の益を與ふ可し。又其富は政府・學校・教會・貧院等をも助くるものにしてつまり一國の幸と益になるなり。然し家の働きと儉約せずして貧しきは大なる不幸、且耻にして衆人に賤められ終には人たる權利もなくなり、或は借金して約束に背く等の罪惡を生じ、且朋友の信義をも缺き、或は人の厄介となる等實に不可言いふべからざるの禍を家と國にきたすものなり。故に此職務を盡し得可き教育を受けざる可からず。

それ家を富すこと即ち儉約することは、品行（酒色、煙草、食物等の情慾を制し、不養生等の行ひなき事）と精出せいだ（家内の衣服食物の事、子女の教育のこと等萬事に働くこと）と智慧（智慧を廻らし善き方法を考へて儉約すること、或は經濟の道を知ること、未來の事を計る事等）等に依らざれば決して得可らず。然し品行も精出の性質も智慧もこれ等がほしいと思ふても急に得可らず。故に婦女子と雖も幼稚の時より教育して智徳を育てざる可らず。則ち小兒の時より飲食等の情慾に勝たしめ、又金を決して無益に費すことなからしめ、又惡をすてゝ善に進ませ、己れを捨て、人の益をなすことを望みとなす様に、だん／＼に心を盡して教育す可きなり。又家に在ても學校にあつても女子むすめには食物を製する方法を教へ、且つねに之を實地になさしめ、又衣服の洗濯あらいそぎ、或は縫裁法ぬひたちのほうふ等もをしへ、且實地になさしむべし。此務は忙しくとも學問と共に常に成さしめざる可らず。なぜなれば之に依て如何なる困難にも打ちて働く性質となり、實に幸なる婦人となる基なればなり。又幼稚の時より常に學問をなさしめ智慧を研かしめざれば決して此職務を能く盡すこと能ざる可し。而して婦に教育あれば子女を能く教育すれば放盪ほうたうも出來ざる故、女子おんなを教育するは大なる富を得るの基なり。

〔と〕家の健康

世には醫學の大學校、病院、醫師、藥種屋等は實に盛大なる者にして且夥し。而して此醫學は他の職業を研究するより随分難しき學問なり。故に醫師の内には眼科もあり齒科もあり産科もあり外科もあり内科もありて、體の一部分を専ら研窮し其生理と養生法と治療法等を知り、大學者と雖も一生涯日々に研究し日々に實驗を得て名醫と成る可きもの也。今述たるものは悉く世に缺べからざるものなれども、此は何の爲めに斯く大切なるかと云へば、皆家々の病のために缺く可らざるものなり。しかし如何なる名醫といへども不養生なる人に健康を與ふることは能はず。たとへば胃病の人が醫師の命いのちに従はずして、運動もせず食物の度も節せず食物も選ばずしていくら藥を飲んでも、健康を得ること能はず。而して此養生は醫師が云はざるも知つて居る事にも行ふことは實に難きものなり。ゆえに家に於て養生することは最も大切なることなり。如何となれば病氣を癒すより病氣にならぬやうに病氣を防ぎ我身にやまひを入れざるは尤大切なり。而して此病を防ぐ仕方は養生なれば、醫學の内養生は實に大切なる學問なり。而して此養生とは體のこと又衣服、食物、光線、空氣等の事に關はる故に、此家の健康を主つかさどるは婦人の任なり。

而して婦人の體は懷孕みごち、出産さん等の重任おもむきを負ふ故に甚危きものなれば、充分生理を知り且養生の性質備はらざる可らず。又婦は子を産むもの故、若自分の體あしければ子も微弱よわくならしむべし。且産後も自ら養生せざれば乳を子に與ふるゆえ子の體を弱からしむ。又幼き小兒こどもに食物をあたへ衣服を着せる者なれば、充分に生理養生法をしり子の養ひ方衣服の用ひかた等を知らざれば子を殺すこと多し。また婦は子を教育するものゆえ、自ら體の規則に従はざれば子の體を教育すること能はず。又婦人は一家の食物を製して之を養ひ衣類の洗濯をなし、或は家中を清潔になして家の健康を守るものなり。故に婦女子は自ら教育をうけ總て養生の理を知り且之を自ら爲し能ふ體の性質が備つて居ら

ざれば、此職務を盡す事難し。其理を次に擧ぐ可し。

(第一) 夫が婦の職務を盡すこと能はず。譬ば夫が毎日婦に那の障子を開けよ、子も汝も運動せねばならぬ、又今日此食物を拵へなされと命ずること能はず。又命ぜられても婦自ら教育なければ、これに従ふこと能はず。

(第二) 婦自ら教育なければ養生する性質も力らも習慣も非らざる故、夫より或は他人より養生の理を聞くも、或は本を讀むも之を行ふこと難し。たとへば食を節することにも食物をえらむことにも其教に従ふべきを悟るとも、幼稚の時より食ひ過ぎ或は定時の外に飲食すること、或は不消化物を多く好む等の不養生の性質が強く養生の性質弱ければ、眞の教に従ふこと能はず、且つ子にも不養生不規則の性質を傳ふ可し。

(第三) 學問無ければ物ごとの理を知らざるゆゑ、養生の出來ぬもの也。譬ば食物は章魚より牛肉がよろしく、又口にてよく噛めば大に養生の爲によろしきを聞けども、肉の物質は何より成り章魚の物質は何より成り其食せしものは體のいかなる部分を作るか、また口にて噛み唾と混和ば胃の中にて變化を早く受ること又胃の器械は如何なるものにしていかなる働きをなすか、又此不養生は終に如何なる大變の危きことが起るか等の理を明かに知らざれば、人の教を信じて其説に従ふ心の起らぬものなり。

(第四) 教育なければ實驗少く定則の性質なき故に養生する心は起らざるべし。たとへば運動と清き空氣は實に健康を得るに缺くべからざることを聞くと雖も、自分に實驗と定則あらざる故明かに其益を味ひしこと無れば、毎日規則を立て續て運動すること無る可し。

(第五) 教育なければ望も少く勉強心も弱きゆるゑ自然飲食に心を注げ情慾を慾に爲すべし。

(第六) 教育なければ小兒或は自分或は夫或は父母或は姉妹等が病氣の時看病法がわからぬ故、大に其務を缺き、又其大なる困難、(即ち不潔物の掃除或は夜も眠られず或は其心配)等を忍耐して快く心切と愛と慰めを以て病人を介

抱いたすこと能はず。或人は十年も二十年も病氣になることありと雖も、それも厭はず倦ずして愛心を熱くし介抱いたさざる可らざるなり。

夫れ教育とは身體の教育もありて幼稚の時より身體を強壯に育て養ふのみならず、體の健康を得る様に體の規則に従ひて養生する性質を教育して強からしむることなり。譬は食を撰び之を節すること、或は規則を定めて運動すること、或は萬事時を定めてすること、等の性質を育て、又身體の有形に由て直に養生する性質を育つることなり。故に男女を問はず幼稚の時より體の規則に従ふ性質を教育し、だん／＼道理のわかりしだい其理を悟らしめ、而して成人せば、自ら身體の爲めに考を盡し其理を研究し實驗を多くし絶ず進む可きなり。故に、此職務を盡すにも大に智と徳が入ります。

(四) 結尾

病氣の時に醫者が入り國の亂る時ワシントンの如き大將が入り、女子の教育の進まざるときメレーライランの如き婦女子が入用なるが如く家の治らざる時、或は困難なる時、或は病氣のとき、或は子の性質の難しき時、或は貧乏なる時、或は不幸のとき等に婦人の職務を盡すべき最大切なる時故に、之を辭せず之を厭はず恐れず勵んで其任に當らざる可らず。故に婦女子は常に智をみがき徳を脩め忍耐力を強め實驗を多くし望みを貴くなすべきなり。ゆゑに今教育を受ける者は如何に困難なる時も如何に多忙しき時にも如何に樂しき時にも、常に學問をなし徳を建て縫裁割烹等の自分のなすべき仕事を働き、忍耐・望・一生進んで其職務を各々遂げざるべけんや。また母たる者は子女の教育と自らの進歩のために熱心望みて一日も怠る可からざるなり。

しかし人は弱きものにて學問あれば慢る心が出て安樂なれば情慾に陥り易く、難ければ望を廢て易くなりて、眞に女の徳を建ることは實に難しき事なれども、聖書を汝等あんたがたの教となし、上帝を汝等の師となさば其愛なく眞の道を進んで汝等の望むところの美しき徳を建ることを得べし。

(明治十四年十二月出版)